



## 第17回少年の主張鏡石町大会

8月1日(土)町図書館で第17回少年の主張鏡石町大会が開催され、小学生11人、中学生6人が日頃感じていることや考えていることなどを発表しました。  
最優秀賞に、小学生の部・添田葉月さん(二小6年)、中学生の部・吉田真里花さん(鏡石中2年)が受賞しました。  
中学生の部最優秀賞の吉田真里花さん、優秀賞の加藤優作くん(鏡石中2年)、滝口結花さん(鏡石中3年)の3人は、南相馬市で開催される県大会に推薦されます。今回は中学生の部で最優秀賞に輝いた吉田さんの作品を紹介します。

去年の十一月、衝撃的なニュースが飛び込んできました。それは、十歳前後の少女たちが、イスラム過激派によって時限爆弾を体にくくりつけられ、自爆テロの犠牲にされた事件です。この爆発では、十九人もの人々が死亡しました。映像では、車が炎上し、ケガをした人が救急車に乗せられて病院に運ばれる姿や、犠牲者の家族が大粒の涙

「死んでもまたよみがえれるんだよね。」  
すれ違った小学生の会話に、私はどきりとしました。もしかしたらそれは、現実世界の話ではなく、ゲームの中の話だったかもしれない。しかし、私には、鋭く胸に突き刺さる言葉でした。



### 「命の重み」

吉田 真里花

去年の十一月、衝撃的なニュースが飛び込んできました。それは、十歳前後の少女たちが、イスラム過激派によって時限爆弾を体にくくりつけられ、自爆テロの犠牲にされた事件です。この爆発では、十九人もの人々が死亡しました。映像では、車が炎上し、ケガをした人が救急車に乗せられて病院に運ばれる姿や、犠牲者の家族が大粒の涙

「死んでもまたよみがえれるんだよね。」  
すれ違った小学生の会話に、私はどきりとしました。もしかしたらそれは、現実世界の話ではなく、ゲームの中の話だったかもしれない。しかし、私には、鋭く胸に突き刺さる言葉でした。

「お母さんの嘘つき。いつまでもたっても出ないじゃないか。いったい、水道局の管理人は何をやってるんだよ。」  
今考えると、どれほど母の心を傷つける言葉だったか、無責任な言葉だったかということも思い知らされる。結局、

## 第37回「全日本中学生水の作文コンクール」

全日本中学生水の作文コンクールは、「水の日」(8月1日)及び「水の週間」(8月1日～7日)の行事の一環として、次代を担う中学生を対象に、広く水に対する関心高め、理解を深めるために実施されています。  
全国応募総数16,432編(うち福島県323編)の中から最優秀賞1編、優秀賞9編、入選27編が選考され、柳沼優吏くん(鏡石中2年)が見事優秀賞(厚生労働大臣賞)に輝きました。今回は柳沼くんの作品を紹介します。



### 努力の結晶

柳沼 優吏

水道の蛇口をひねる。滝のように水が流れた。触ってみる。「冷たい。」コップも使わず、手ですくい一口飲んだ。「うまい。」僕ののどを潤す冷たい感触。しかし、当たり前前の日常はある日突然とぎれてしまった。

「お母さんの嘘つき。いつまでもたっても出ないじゃないか。いったい、水道局の管理人は何をやってるんだよ。」  
今考えると、どれほど母の心を傷つける言葉だったか、無責任な言葉だったかということも思い知らされる。結局、

